

瀋陽駐在員事務所

「瀋陽ゴルフ事情」



室内ゴルフ場

瀋陽にはゴルフ場が5つある。人口が800万人だから、非常に少ない。5年前は、日本人、韓国人、欧米人が主な客だったが、最近は中国人ゴルファーが急速に増えている。雪の降らない瀋陽だが、毎日が真冬日だから、フェアウェイもグリーンも完全に凍結する。ゴルフ好きには退屈な長い冬の始まりである。そんなゴルファー達に朗報が届いた。それは「室内ゴルフ場」の開業である。シュミレーションスタイルで、結構リアルである。1300平米に7つの練習ブースと、8つのVIP個室を備える。料金は、練習モードが1日使い放題50元(630円)、18ホールが100元(1250円)と安い。休日には予約が必要なほど好評で、初心者から上級者まで真冬のゴルフを楽しんでいる。瀋陽から北海道へのゴルフツアーが組まれる日もそう遠くないだろう。道内ゴルフ場の会員権が中国人ゴルファーに買い占められるかもしれない。中国のゴルフ熱が、低迷するゴルフ会員権市場の起爆剤になるかも・・・。

正司 毅

(財)日中経済協会北京事務所 札幌経済交流室

「ネズミ族」



国際先導報

昨日、NHK を見ていると北京に住む「ネズミ族」についてのドキュメンタリー番組を放送しており食い入る様に見入ってしまいました。ネズミ族とは1960年代、旧ソ連と緊張状態にあった当時の中国政府が有事の為に防空壕として作った穴を住居用に改造した地下住居に住む人達の俗称です。その地下住居には窓はなく、風呂・トイレ等の水場はもちろん共同利用、衛生的に問題があり最近では犯罪事件も少なくなく、今年政府は地下住居からの一斉退去を方針として決めています(住人からの反発で現在は停止状態)。家賃は月300元程(約3,600円)で約100万人がその住居を利用しています。

住んでいる人達は地上のマンションには入れない人達ですが、番組によると殆どが地方から出てきた都市戸籍を持たない人であり、なんとその半数は大卒の学歴を持つ人達との事でした。大都市北京に出てきて、大学で培った知識を基に何とかチャンスを掴みたいとギリギリの生活をしながら奮闘している人達です。残りの半数は田舎から出てきたものの北京でチャンスを掴めず、また田舎にも戻る当てがなく運命に翻弄されている人達です。番組では何人かの人をフォーカスし生活の様子を描いているのですが、全員が泣きながら現状を話している姿が非常に印象的でした。頑張っても都市戸籍を持ち、北京でハイクラスの生活をしている人達とは埋めきれない差、不公平感がそこに横たわっており、小職が毎日感じている「この国の一体どこが社会主義、共産主義なのだろうか」という思いを更に強くしました。

途中取材対象の一人と突如として連絡が取れなくなります。周りの住居人に聞くと「随分前に出て行ったよ」との事。田舎に帰ったのだと思います。小職が今年3月のとびっくすで書いた「さよなら、北京」の様に益々北京は住みにくくなっているのだと実感した番組でした。

中島 康成

ユジノサハリンスク駐在員事務所



初めての海外赴任で・・・PARTV」

今回は日本とロシアに於ける仕事上のマナーの違いについてお話しします。

【仕事上の確認について】～その1

ロシア人は確認されることが大嫌いの様です。当事務所のロシア人スタッフも指示した仕事に対し途中経過を確認したら不機嫌になります。「信頼されていない」と受け取るのかも知れません。それで、待ちきれず確認したら「忘れていた」と言うケースが多く見られます。一方、報告も苦手の様です。いわゆる日本特有の「報・連・相」がロシア人には通じません。

次に、私が日本とロシアのビジネスマナーの大きな違いを実感した経験談をお話します。道内企業とロシア企業でビジネス交流会（サハリン会場）をセッティングするとき、日本は最初に日時・場所を決定し、テーマを決め、参加企業リストを作って、挨拶の段取りまで事前に準備し（挨拶の内容文まで通訳に事前に渡します）、詳細にスケジュール確認を行った上で、当日に備えます。ロシアはまるで違います。最初は日時とテーマと進行の流れだけで十分です。彼らにとって重要なのは直前（前日もしくは当日）の事情で、それにあった行動をとります。最悪の場合、誰が出席するのか日本側に知らされないまま当日を迎えます。ところが、当日は予定した以上にロシア側からも企業が集まり、場を盛り上げてくれます（ロシアの方が柔軟な対応が可能です）。また、ロシア側からの挨拶も、その場でお願いしても全く問題なく、気持ち良く引き受けてもらえます。挨拶の内容も見事です。その場の雰囲気合った内容で、聞いている側の心に残ります。その時は担当分野のサハリン州政府の大臣が突然、交流会に参加し、挨拶をして頂きました。

そこで、ロシア人全般で言える事ですが「火事場の馬鹿力」ではありませんが、一旦集中したらロシア人の集中力には驚くものがあります。すなわち、「初めチョロチョロ中パッパ、本番（終わり）よければ、全てよし」なのです。

なるほど、”これがロシアなのか”と、あらためて異文化の違いを実感しています。

三上 訓人